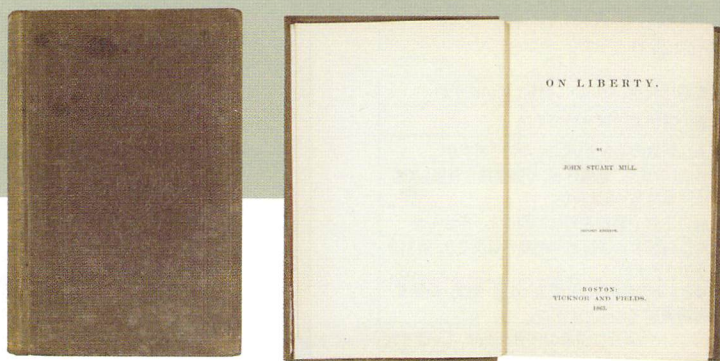


ブック村だより

本学コレクション紹介 (18)

J.S.ミル『自由論』1859 ①	森岡 邦泰(1)
2009年度 図書館利用アンケート調査結果報告	(2)
ぶっくす・なう	(4)
『復讐法廷』	谷岡 一郎
『名曲悪口事典』	塩田 眞典
『凄い時代』	佐和 良作
『歓喜する円空』	下山 晃
選書ツアー体験記	(6)
皆さんからの声	(7)
インフォメーション・開館案内	(8)



本学コレクション紹介 (18) J.S.ミル『自由論』1859 ①

明治以降日本は西洋文明の摂取に精力的に取り組んだが、『自由論』は中村敬宇により早くも明治5年に『自由之理』という題名で邦訳され広く読まれた。明治時代の翻訳家を悩ませたのはしばしば対応する日本語がなかったことである。対応する言葉があるかどうかは対応する概念があるかどうかということであり、もしなければその概念がその国になかったことになる。翻訳とは見えにくい思想風土の違いを顕在化する働きがあるのである。

さてLibertyを中村は「自由」と訳した。ただ中村自身Libertyにぴったりと当たる日本語も漢

語もないとは言っている。また福沢諭吉も当時翻訳で使われていた「自由」という訳語はLibertyの原意を尽くすに足らずと言っている。それは、このLibertyという言葉が政治的自由の意味であるのに、それまでの日本語の「自由」という言葉には「わがまま勝手」という含みが濃厚にあったかららしい。

それに対してミルの『自由論』を『群己権界論』（自己と集団との境界）という題名で初めて中国語に翻訳した嚴復は、Libertyに対して違う態度を取った。

(経済学部 准教授 森岡 邦泰)

2009年度 図書館利用アンケート調査結果報告

2009年7月、学生・外部利用者（入館者）および教員・院生を対象とし、図書館利用アンケートを行いました。同趣旨のアンケートは2006年度にも実施しており、今回はその後のサービス改善について比較・検証を行うため、前回とほぼ同時期・同内容で実施を行いました。

実施期間 2009年7月13日～29日
(14日間)

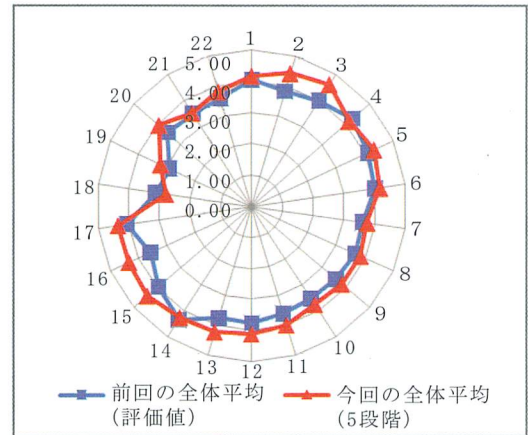
配布数 館内(学部生・外部) 900、
教員99、院生29

有効回答数 館内607、教員24、院生12

調査方法 図書館利用における22項目の質問についての5段階評価、「入館頻度」「よく利用する分野・施設・コーナー」を答えて頂きました。

全体

満足度平均(5点満点) = 4.00点



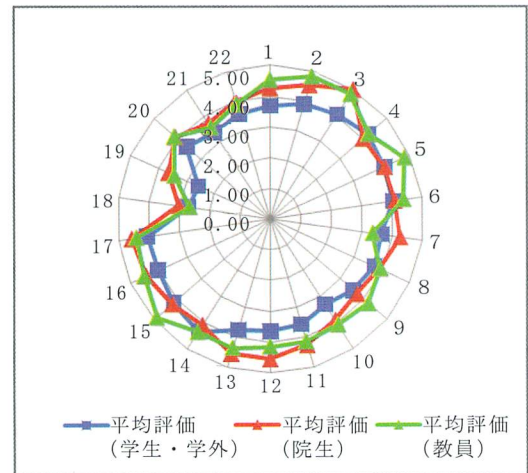
→前回 (3.75) を上回る結果となりました。

身分別平均: 教員 4.17、院生 4.13、学生 3.71

22項目の質問は下記の通りです。

サービスの姿勢	利用条件	1 図書館は利用したい時に開館していますか	
		2 図書の貸出期間は充分ですか	
		3 必要な冊数の本を借りることができますか	
	外部利用	4 学外者(卒業生、地域住民)が図書館を利用しても特に問題はありますか	
		館員の勤務姿勢	5 職員への対応や勤務姿勢に問題はありますか
			6 職員に相談すれば疑問や問題を解決でき、資料を入手できますか
情報のコントロール	蔵書(コレクション)	7 必要とする分野の資料(図書・雑誌・新聞・視聴覚・参考図書)が揃っていますか	
		8 所蔵している書籍は講義の内容と連携していますか	
	資料検索	9 独力で資料を探し出せますか	
		10 館内の掲示や配布物から自分の知りたい情報を知りたい時に入手できますか	
		11 図書の並び方はわかりやすいですか	
	ホームページ	12 図書館ホームページから自分の必要な情報を入手できますか	
13 コンピュータに関する設備・環境は快適ですか			
場所としての図書館	施設条件	14 図書館は気軽に利用できる場所にありますか	
		15 図書館は静かに集中して学習できる場所ですか	
	設備条件	16 空調は快適ですか	
		17 照明は適切な明るさですか	
イベント	18 1F情報プラザを情報入手の手段として利用していますか		
	19 展示や選書ツアーなどのイベントに興味をお持ちですか		
危機管理	20 バリアフリー環境が整っていると思いますか		
	21 危機管理体制が整っていると思いますか		
	22 個人情報保護体制が整っていると思いますか		

※質問内容は、図書館サービス品質評価ツール LibQUAL+を参考にしました。



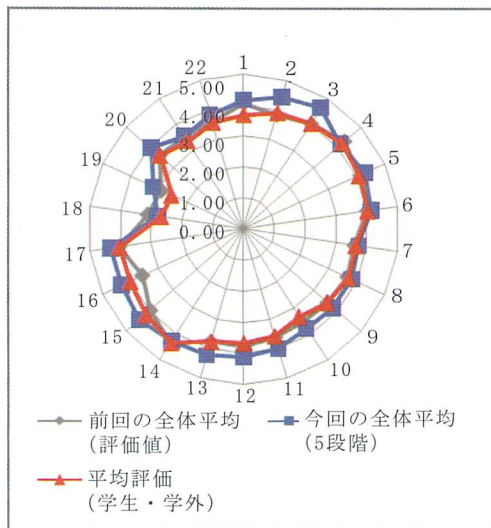
→特に「貸出条件 (4.62)」「学習環境(静かさ、空調、コンピュータ環境) (4.36)」で高い評価を得ており、前回調査後に行われた「貸出条件の引き上げ」、「図書館システム更新による検索機能向上」、「コミック・視聴覚資料(映画関係)の配置見直し」、「巡回指導の強化」などの改善策実施を反映した結果となりました。「図書館イベントへの関心 (3.21)」、「1F情報プラザの活用度 (2.78)」については低評価となりました。

学生の皆さんの調査結果は次の通りです。

学部生・外部利用者

5段階評価

満足度 = 3.71



→全体平均を0.29下回る結果になりました。

全体の平均値 (4.00) より高い評価を得たのは「貸出条件 (冊数) (4.04)」、「外部登録者の利用 (4.21)」、「職員の応対・勤務姿勢 (4.09)」、「職員のレファレンス対応 (4.04)」でした。

「図書館イベントへの関心 (2.57)」、「1F情報プラザの活用度 (2.70)」については全体と同じく、低評価となりました。

その他要望として、「開館時間の延長」「貸出条件 (期間) の引き上げ」、「資料のリクエスト」、「検索方法のわかりにくさ」、「PC環境の更新」が多く見られました。

利用頻度

来館 半数が「週1～2回」と回答。約60%がテスト・レポート対策などの学習目的で利用しており、前回より28%の増加となりました。

利用目的 「学習目的」と回答した層は、前回より13%増となりました。

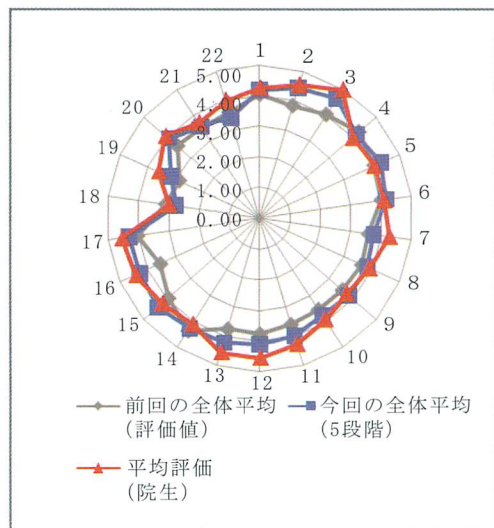
分野 「コンピュータ関係」(118件)、「スポーツ」(115件)、「社会科学」(74件)となり、本学カリキュラムの特色が出た形となりました。

コーナー・施設 「ノートパソコン (ネット検索目的)」(121件)、「5F閲覧席 (110件)」、「お薦め」(109件)「学選」、「資格」(各102件)、「新着」(94件)。

院 生

5段階評価

満足度 = 4.13



満足度4.13と、平均値を引き上げる評価を得ました。貸出冊数条件 (30冊) では、すべての回答で満点を得ました。

特に「必要分野資料の所蔵状況 (4.27)」、「資料配置 (4.27)」、「ホームページからの情報入手」・「PC設備・環境」(4.55) では高評価を得ました。教員より指導を受ける過程で、推薦された資料を探しに来るケースが多いようです。

その他要望として、

「ネットに接続されているPCを各階へ配置して欲しい」

「資格本は最新のものを置いて欲しい」

「住宅地図の新しい版を購入して欲しい」

というコメントが見られました。

利用頻度

来館 「週に1～2回」が7割、「月に1～2回」が3割となりました。

利用目的 調査・研究目的が8割、読書・気分転換が2割となりました。

分野 約3割が「社会科学」、次いで「産業」(16%)となりました。

コーナー・施設 人気順に、3階閲覧席、雑誌新聞コーナー、資格コーナーとなりました。

自由記入欄に寄せられた幾つかの要望については、本号7ページでお答えしています

『復讐法廷』

(ハヤカワ・ミステリ文庫、
2009.9)

ヘンリー・デンカー 著、中野圭二 訳

日本で今年5月からスタートした「裁判員制度」によって、私たちもいつ召喚されるかもしれません。日本の制度でよく似た制度として有名なのは、アメリカの陪審員制度ですが、こちらは市民から12人が選ばれ、プロの裁判官は含まれていません。ヘンリー・フォンダ主演の『12人の怒れる男たち』という映画を知っている人はなかなかの映画通だと思いますが、本の世界でアメリカの司法制度を知るための最良の書（しかもおもしろい）は、ここで紹介する『復讐法廷』でしょう。

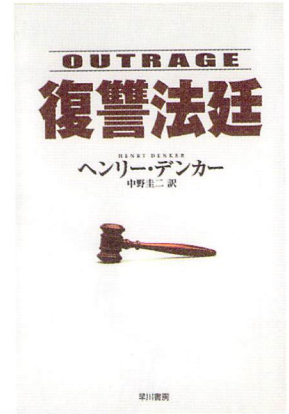
娘を強姦・殺害された男が、その犯人に復讐したのち自首し、その裁判が進行します。その中で、現代社会が抱える法哲学と規範の矛盾が浮かび上がっていきます。主人公はこの男を弁護する

若き弁護士ゴードンですが、裁判官、陪審員、被告などいろいろな立場の人間の心の葛藤が描き出されるのです。

本書は1984年にベスト・ミステリーの1位を獲得しました。法廷モノには、ペリイ・メイスン・シリーズをはじめ、名作がいくつもあります。そんな中でも、未だにこれを越えるリーガル・ミステリーはないと断言できます。日本の裁判員制度スタートにあわせ、新装で復刊されましたので、この期に是非読んでもらいたい本です。

ほんの少しついでに、11月に出版された『はじめての刑法入門』（ちくま新書）も参考にさせていただくと、学長が喜ぶますのでよろしく。

(学長 谷岡 一郎)



『名曲悪口事典』

ベートーヴェン以降の名曲悪評集』

(音楽之友社、2008.6)
ニコラス・スロニムスキー 編、
伊藤 制子、大田 美佐子、栗原 詩子、
小岩 恭子、古後 奈緒子 訳

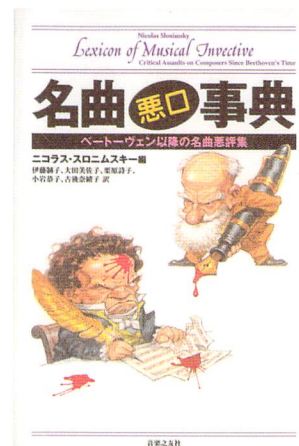
ほめるときには巧い言葉が浮かばず難儀するのに、貶すとすれば俄然頭が高速回転し罵詈雑言が止めどもなくあふれだす、こういったことがありますか。私のことではないけれど。本書はベートーヴェン以降の主だった大作曲家の作品に対する批評家達の悪評アンソロジーであり、邪しな頭脳の高速回転がもたらした産物だともいえる。

それにしてもひどすぎるではないか、名曲に対して、と思われよう。しかし傑作というものは、常にそれが出現した時代の美意識に逆らい破壊してしまう毒を含んでいるはずのものではなかったか。批評家が解っていなかったのではない。解っているから、つまり教養、分別備わったオジサンだから、ムカツキ、キレル。絶賛評ならぬ悪評を

読むことによって私達はその作品が生み出された時代の文化状況を熟知できる。特に読み応えのあるのはワーグナーの項、それはおそらく彼の音楽が多量の毒を含んでいる証なのである。

芸術的感動と嫌悪感とは紙一重であるらしいことを本書は教えてくれる。ならばこそ、傑作に初めて接したとき鳥肌が立つ。また本書はクラシック音楽入門書としても読めることを指摘しておこう。「チャイコフスキーの最初の『ピアノ協奏曲』は、最初に焼けたパンケーキさながらに、ぱたりと落ちた」このような記述に接すると、ぱたりと落ちた「曲」を食べたく、否聴きたくはないか。

(経済学部 教授 塩田 真典)



『凄い時代』

(講談社, 2009.9)
堺屋 太一 著

過去一年間、世界経済は「100年に一度」という大激動に見舞われた。08年9月にはアメリカの大手証券会社の一つ、リーマン・ブラザーズが倒産、保険大手のAIGも政府の救済を受けた。

為替市場には大変動が起こり、全世界的な金融危機が生じ、大不況が始まった。10月になるとアメリカでは住宅着工や自動車販売台数が半世紀前の水準に逆戻り、自動車大手のGMやクライスラーが倒産の危機に瀕した。一瞬にして金融危機はヨーロッパに飛び火し、ヨーロッパの銀行にも破たんの危機が広まった。日本では自動車などの生産の落ち込みが主要国の中では最もひどかった。

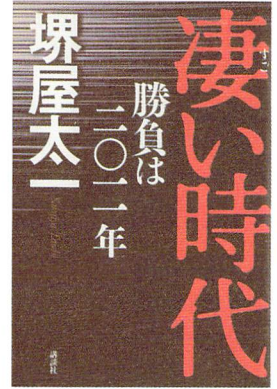
各国では不況対策として、金利を引き下げて市場に潤沢な資金を供給し、同時に財政支出を拡大

して景気を刺激した。この結果、現状なんとなく下げ止まったという認識が広がっている。

しかし、筆者によれば世界経済の落ち着いた「集中治療室」での小康にすぎない。各国とも生命維持装置のカテーテルを何本もつなげている。やがてそれを抜き始める時期が来る。その時こそ本当の衝撃が走る。おそらく2011年に始まる、本当の「凄い時代」が訪れるであろう。

ここ20年間程度の世界の歴史を振り返りながらこうした大変化の背景を説いている。少し難しいかもしれないが、「凄い時代」を生き抜いていくためにも一読を勧めたい。大変な勉強になると思われる。

(経済学部 教授 佐和 良作)



『歡喜する円空』

(新潮社, 2006.10)
梅原 猛 著

ひろく産業をおこし、世をしっかりとマネージメントして多くの民(たみ)を救済することを経世済民という。略して「経済」。単に商品を買ったり建物をたてたり帳簿の金銭を増やすことが経済、ではない。眼目は、「利益」ではなく「民の救済」、である。生涯にわたって何かにとりつかれたように12万體といわれる膨大な一刀彫りの仏像をのこした円空さん。死ぬまで毎日、10体以上の聖像を黙々と彫りつづけていた。「衆生救済」の一心が、その爆発的生涯のエネルギー。

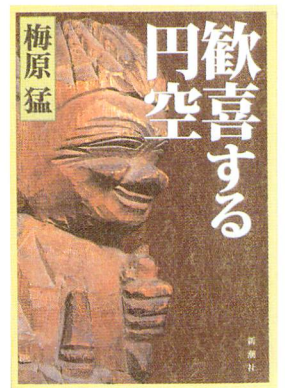
円空さんはむつかしい念仏やもっともらしい仏法を講じて説教に明け暮れたのではない。仏典や教義のエッセンスを誰よりも深く理解したうえで一本の雑木にほかほかの命を吹き込み、誰もが心を開くにこにことしたほっこり気分を木の切れ端

や一本の雑木に彫り込んだのである。円空さんは既に江戸時代の初期に、西洋美術史でいう表現主義や抽象主義といった「〇〇主義」の枠を遥かに超えて、無限に自在に共鳴を創りだしていた。この本を読んだあと、「円空：微笑み物語」のサイト (<http://www.enku.jp/>) など、円空さん関連のウェブサイトにアクセス。家族や友だちとそうしたサイトで紹介された円空仏をたずねて全国を旅すれば、必ず元気もりもり和気藹々。カップルで行ったら、間違いなく、あなたは救われます(当たり前、か?)…誰か、ぼくと一緒に、行かんか?(^^)

円空仏に 答えをもらう 迷い道

願い星 円空仏を傍らに 響太郎

(総合経営学部 教授 下山 晃)



『選書ツアー体験記』

総合経営学部 経営学科2年
竹井 規人

学生図書スタッフとなって、初めて選書ツアーに参加して来ました。同じスタッフである友人と待ち合わせて、いつもお世話になっている図書館室長とスタッフの縣さん、そして、もう一人の参加者の方と開催されるジュンク堂にて合流します。1時間と少しの時間にはドタバタ気味に店内を巡っていましたが、久々に出向く大型書店は楽しくて、翌週には別の友人と個人的にまた行ってきました。

まずは、事前に調べていた自分の興味のある本を中心に小説・エッセイ・ビジネス書などを見ながら、次に学生の皆さんに「貸し出し数トップ」を狙って、多く読んで貰えるような本を前情報と勘だけで夙潰しに探していきます。これが意外と面白くて、内容と同様に「タイトル、表紙、背表紙が肝だな」と勝手に納得しながら眺めていました。今更ながら滑稽で、傍から見たら挙動不審

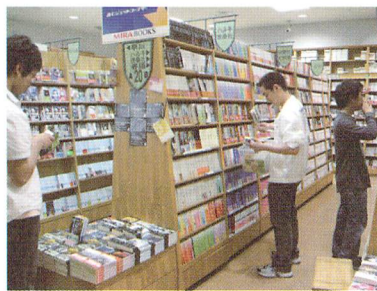
だったかもしれません。

しばらくして下調べしていた本は殆ど探し終えた頃になると、再度集合してそれぞれの選んだ本を並べてみます。また面白いもので、ジャンルが重なったり分かれたり、選んだ本の嗜好からまるでその人の性格までも読み取れるような気がします。

そして、その後はゆっくりと好きな本について、大学生活・私生活について話し合いました。僕の友人は本を読まないことが多くて、落ち着いて本の話をするこの日は安らぐ貴重な時間となりました。

学生選書ツアーは11月にも行われるので、また参加したいと思っています。参加してみようかなという興味のある方は気を張らずに、ぜひ一緒に面白そうな本を探してみましょう。きっと楽しめると思いますよ。

写真向かって左端が竹井さんです。日頃から文筆活動をされているようで、読みやすい書評を驚くべきペースで投稿して下さいます。



選書ツアーは年2回、ジュンク堂難波店にて実施しています。第1回は6名の参加がありました。本を選んでい
る時や、終了後のティータイムに、それぞれ充実した情報交換を行っていて、時が経つにつれ生き生きしてくる皆さんの笑顔が印象的でした。興味のある方はぜひ、カウンターまで！

皆さんからの声

今年7月に行いました利用者アンケートの集計結果が出ました。特集では学生の皆さんの調査結果をお知らせしましたが、ここではそこに寄せられた疑問や要望のうち、幾つかについてお答えします。

貸出用パソコンの反応が遅い。持ち運びするのに重すぎる。

学内では多くの利用が集中することがままあり、同時アクセス数が多くなると反応が遅くなる事があります。ノートパソコンについては、平成23年度秋に更新の予定です。

学年によって貸出上限冊数を変える意味がわからない。

平成18年度まで、当館の学生対象の貸出上限冊数は5冊でしたが、利用状況や他学の規程を調査した結果、8冊に引き上げることとなりました。

3・4年生については教育実習や卒業論文作成のための貸出が必要とされるため、10冊としました。

図書館としては、「借りたい本がなかなか入手できない」という事態は避けなければなりません。現在のところ、8冊という現在の規程は、決して少なすぎるものではない、という見解です。

簡単に本の内容を書いてもらえると、うれしいです。

図書館ホームページ「蔵書検索」での検索結果は、国立情報学研究所が運営するデータベース「WebCat Plus」へリンクされています（一部データを除く）下記①をクリックすると、簡単な



内容や目次などのデータ（日外アソシエーツ提供「Book」データベース）を閲覧できます。

新着図書などの情報を、来ていない人達にも提供してもらいたい。

図書館ホームページでは、次の新着図書情報を閲覧できます。



①「新着検索」

新着図書が新しいものから（登録日順、50音順）表示されます。最新の1週間分は、先頭に「New!」のマークが表示されています。

②「新着図書一覧」

新着図書より、館員がピックアップした図書のリストが、表紙画像とともに表示されます。

表紙をクリックすると拡大画像が、タイトルをクリックすると当館の所蔵情報が表示されます。参考にチェックしてみてください。



図書館インフォメーション

◆図書館利用アンケートを実施しました

2009年7月13日(月)～7月29日(水)の14日間、入館者(学生・外部利用者)および院生・専任教員を対象に、図書館利用アンケートを行いました。期間中、643名に回答頂きました。調査結果報告について、要旨を本号でもお知らせしています。頂いたご意見については回答とともに、館内掲示・配布物でご紹介します。ご協力頂いた皆様、貴重なご意見を頂き、誠に有難うございました。

◆特設・イベント資料、好評展示中です!

特設コーナーでは、年末に向けて旅行書を展示しています。是非一度ご覧下さい。2Fエレベータ前でも、学習に役立つパネル展示・図書紹介・展示を行っています。併せてご活用下さい。

◆卒業生・保護者・地域住民の方も、図書館をご利用になれます

公的機関発行の身分証明書および写真(横3cm×縦4cm)、外部の方は利用登録料1,000円をご持参下さい。定められた範囲での閲覧・貸出・所蔵資料の複写が可能です。ご希望の方は2F受付まで。

◆平成21年度上半期に寄贈された本学教員著書は下記の通りです。(50音順 敬称略)

※配架場所は2F「本学教員著書コーナー」です。貸出もできます。

【大阪商業大学JGSS研究センター】

『JGSSで見た日本人の意識と行動』第9集/大阪商業大学比較地域研究所, 東京大学社会科学研究所編集 - 東大阪:大阪商業大学比較地域研究所, 2009.3.

『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集』第9集/大阪商業大学JGSS研究センター編集 - 東大阪:大阪商業大学JGSS研究センター, 2009.3.

【北川 宗忠】『全国ふるさと三十三所巡礼辞典』/北川宗忠編著. - 彦根:サンライズ出版, 2009.3.

【斉藤 豊治】『図解裁判のしくみ:史上最強』/永井一弘, 濱田剛史, 斉藤豊治著. - 東京:ナツメ社, 2009.8.

【中嶋 嘉孝】『家電流通の構造変化:メーカーから家電量販店へのパワーシフト』/中嶋嘉孝著. - 東京:専修大学出版局, 2008.2.

【中津 孝司】『日本のエネルギー戦略:資源危機の10年後を予測する』/中津孝司著. - 東京:創成社, 2009.6.

【前川洋一郎】『カラオケ進化論:カラオケはなぜ流行り続けるのか』/前川洋一郎編著. - 東京:広済堂あかつき株式会社出版事業部, 2009.2.

開館案内

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

●は休館日です。(開館時間:月～土 9:00～20:00)

上記以外にも臨時休館日を設ける場合があります。

開館日程および時間は変更されることがあります。

詳細は学内掲示・モニター・ホームページ等でお知らせ致します。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第35号 平成21年11月30日発行 大阪商業大学図書館
 〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10 電話 (06) 6781-5280 FAX (06) 6781-0089
 e-mail: lib@oucow.daishodai.ac.jp ホームページアドレス: http://www.lib.daishodai.ac.jp

ISSN 1346-8928